ほぼ月刊
アフタースクール寺子屋！タイムズ TIMES
第4号
アフタースクール寺子屋！発行
〒152-0003 目黒区碑文谷 3-14-16
電話 03-6412-7832

いつもより「熱い」夏

どこからが夏休みだったのか。3月からずっと休みだった子どもたちは今年、夏休みのウキウキ感がいつものように感じられなかったのも無理はない。休校、分散登校、各行事の中止。夏休みにレジャーに出かける予定もない。そんな中、寺子屋の夏は暑かった、いや、熱かった。

寺子屋では8月に入ってからの3週間、午前中は工作教室、午後はさまざまなイベントを連日開催することを決定。スタッフがそれぞれアイディアをひねり出し、試行錯誤し、そしてついに7月、寺子屋の玄関先には工作でつくる試作品がずらりと並んだ。そのカラフルな作品群を見た子どもたちの期待感は否応にも高まる。「オレ、これ（スピンボール）回してみたい！」「私これ（ハーバリウム）作ってママにプレゼントする！」などなど、玄関先は子どもたちで大渋滞である。送迎に来られた保護者の方々も「工作の宿題がこれで済む」と、ホッと胸をなでおろしていたようだ。

午後のイベントも初日から子どもたちの度肝を抜く企画「光の世界へ」を開催。寺子屋の壁や天井にたくさんの蓄光シールを貼り、星座やらニコちゃんマークやらをかたち作る。そしてお化け屋敷さながらに、外光が入ってきてしまうところすべて段ボールで遮光し、寺子屋を真っ暗闇にする。すると、子どもたちが貼った蓄光シールが初めはぼんやり、数秒後にはきらびやかに光り輝いてくる。子どもたちのうっとりとした表情を、スタッフ全員が暗闇の中で想像し、このイベントが成功したことを確信したのだった。

3週目にはその週連日「寺子屋！縁日」を開催。上級生は手ぬぐいをねじり鉢巻きにして的屋側にまわり「いらっしゃい！」とさながら祭り好きの江戸っ子風である。スーパーボールすくい、射的、輪投げ、スティックinペットボトル、宝物釣りなど、出店の数が多く、日替わりになる店もある。なのでこの縁日のために連日寺子屋に来る子が続出。朝番中に保護者の方から「今日もウチの子が寺子屋の縁日に行きたいって言ってるのですが、行かせてもいいですか？」と電話が入る。もちろんスタッフの返答は「大歓迎です！」。景品の「スタッフ手作り鬼滅の刃マグネット」が引き寄せたのか、この縁日企画そのものが当たったのか、いずれにしても連日の大盛況にスタッフ全員満面笑みガッツポーズの夏休みだった。

「感染対策」「あなたの命が大事」などの大義名分のもとに、この数か月間、子どもの環境を大人が一方的に制限し、学業他、友達との大切なコミュニケーションも奪ってきた。子どもたちは大人の言う「正しさ」に反抗できない。子どもたちの生活を必要以上に変質させてしまった責任を、これから少しずつでも償っていきたいと思う。

大量に詰め込んでジャングルみたいになったものや、余白で花が泳いでいるようなものまで、それぞれの個性がにじみ出たハーバリウムの作品群。

８月の検定合格者数

そろばん

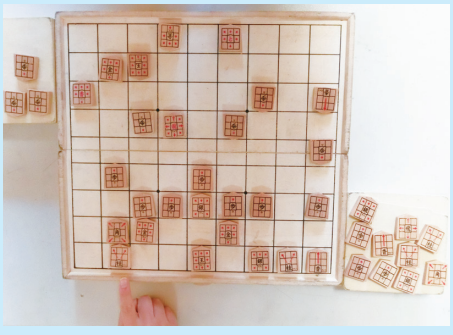
- 珠算5級　2名（碑小学校４年生、目黒星美小学校4年生）
- 珠算6級　1名（東根小学校4年生）
- 珠算8級　1名（大岡山小学校３年生）
- 暗算6級　2名（大岡山小学校2年生、目黒星美小学校4年生）

書道

- 3級　1名（目黒星美小学校３年生）
- 6級　1名（大岡山小学校２年生）
- 8級　1名（大岡山小学校２年生）
- 9級　2名（碑小学校２年生、小山小学校2年生）

プロ棋士並み!?

寺子屋で常にゆるやかに人気を保っているゲーム、将棋。AIが人間に勝つ時代でも将棋の奥深さは変わらない。藤井聡太棋士が加藤一二三九段に勝った時の静かさ、それは子どもたちの間でも同じである。勝負がついたとき、負けを認めた者はそれを静かに宣言し、勝った者はその喜びをグッと噛みしめる。他のゲームだと勝った負けたの大騒ぎになるのに、将棋は最初から最後までプロ棋士のような静けさ。さて、河西先生を最初に負かすのは誰だ？



人（ひと）

深海の鉱物からヘラクレスオオカブトまで飽くなき探究心で自然と戯れる

細川 初ちゃん（目黒星美小 ５年生）
細川 眞ちゃん（目黒星美小 ３年生）

寺子屋のお庭には、よく鳥や昆虫などのお客さんがやってくる。その時、真っ先に「あ！○○だ！」と教えてくれるのは、自然をこよなく愛する、細川姉妹だ。

この二人の自然や動物に対する探究心や好奇心は昔から目を見張る物がある。自由時間中に、大人でも読解が難しいと思われる昆虫図鑑や地理の本を読んだり、お誕生日プレゼントに顕微鏡をもらい様々な研究をしたことを嬉しそうに話してくれるのだ。二人が自然や動物に興味がわいたきっかけを聞いた。「自然についての本を読んで、本で見たものを実際みたときに楽しかったから。(初)」「昆虫の本を見た時に角や色がかっこよかったから。(眞)」また、将来の夢についても聞いた。「海洋学者になって、海の生き物や深海にある鉱物について調べたい。(初)」「カブトムシのなかで世界最強といわれる“ヘラクレスオオカブト”を自分で捕まえること。(眞)」素敵な夢を持ち、自然や動物にたいして優しくできる二人は、寺子屋でも先生やお友達など誰にでも優しく接することができる。その二人の精神は、今の寺子屋の伝統となっている。

誰にでも心優しい二人が世界に羽ばたき、夢を叶える日が来ることを願っている。

さすがのフィールドワーカーぶりを発揮する初ちゃん（左）と眞ちゃん（右）

アレックス先生が先月教えてくれたロイヤルイングリッシュ

In August at Terakoya we studied different kinds of food and drink. The students learnt how to say many foods and drinks in Japanese. We talked about what the students liked and what they didn't like and what their favorite food was. I think the most popular food in Terakoya is sushi!!